ECOMUSE

資料館だより

No.44
2013年
5月号

過去と未来がひびきあう
ーようこそ、エコミューズへ。
www.aozora.or.jp/ecomuse/

あおぞら財団付属
西淀川・公害と環境資料館
エコミューズ

モザンビークから研修で来日

工業地帯における環境問題の歴史と取り組み

2013年4月22日（月）にJICAを通じてモザンビークの中央政府と州政府職員、14名の研修を実施しました。日本の大気汚染公害の歴史とあおぞら財団の活動の説明のあと、さまざまな質問や意見が出されました。主なものをご紹介します。

・私たちは日本政府の支援を得て経済発展のプロジェクトを実施しています。自分たちの国の発展をさせていきたいが、経済発展の被害者の部分も知っておかなければならないと思いここに来ました。私たちモザンビークだけではなく、南半球の多くの国が感じていることで「先進国から環境対策を求められるが、（本音のところは）途上国には発展してほしくないのではないか」というのが今までの印象でした。今日のように貴重な体験を伝えていただけると、自分たちが気をつけなければならないことを初めて実感しました。

・今日の経験を行政内部や国に伝えることは難しくはないのですが、一般の市民にもう少し環境について考えてもらうことが今後の大きな課題です。それは環境だけではなくて社会全体の問題でもあります。モザンビークが現在抱えている最大の問題は食糧の問題です。

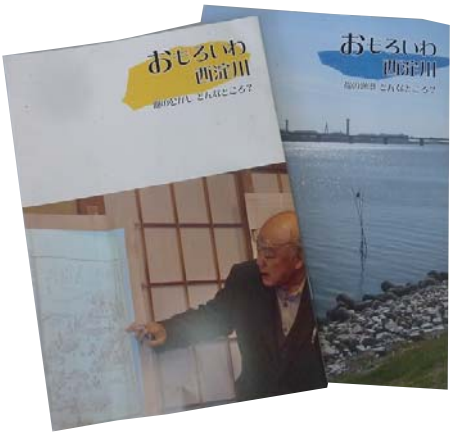
公害　みんなで力を合わせて

資料館の展示がホームページで見られるようになりました http://www.aozora.or.jp/nishiyodogawakougai/

これまでは、資料館に来なければ見ることができなかった展示パネルを、ホームページで見ることができるようにしました。学校の先生や行政・企業・マスコミ、弁護士、医者など、立場が違う人たちの公害をなくすための努力が分かるようになっています。これで、西淀川公害の学習がしやすくなります。中国語版もあります。ぜひ、のぞいてくださいね。

『おもろいわ西淀川』できました

http://aozora.or.jp/omoroiwa/



昨年末から続けている「あおぞらイコバでみせ」。地域ごとに集会を開催して、地域のお話をあつめています。佃と福でこれまで開催してきましたが、その内容を凝縮してミニ冊子を作成しました。その名は『おもろいわ西淀川』。佃は田蓑神社やジェーン台風のお話、福は漁師さんのお話が中心です。無料で配布していますので、ご入用の方はお声かけください。

所蔵資料紹介

826人の子どもがぜん息で苦しんでいる

この資料は大阪市教職員組合西大阪支部公害対策部発行の「公害対策ニュース No.30」(1987年10月26日発行)です。見出しは「公害指定地域解除に怒り 公害はなくなっていない！ 4人に1人がぜん息経験者の学校も」となっています。各校ごとのNO2カプセル測定を組合員が独自に集めて、測定濃度とぜん息児童数を一覧表で明らかにしています。当時の教職員組合西大阪支部は西淀川区・此花区・福島区の小・中学校全体の教職員によって組織されていました。

このニュースによって、大気汚染とぜん息児発症の関係を明らかにするため保健室や多くの先生方が努力してきたことがうかがえます。

また「公害対策ニュースNo.34」(1988年9月27日発行)は「史上最悪のNO2汚染 海老江西小学校 0.090ppmを記録」との見出しで記さています。「大阪市内の自動車排出ガス測定局11局平均は0.084ppmで、すべての局が環境基準(0.04～0.06ppm)をオーバー」していることを知らせ、注意をうながしています。ちなみに福島区海老江西小学校は国道2号線に面しており、西淀川公害訴訟の原告団長だった浜田耕助さんが勤務していた学校でもあります。

「公害対策ニュースNo. 30」

このニュースは先の3行政区のほとんどの教職員に配布され、公害の実態を伝えていました。教師が教室の教え子たちの健康を守るために日常的な努力を重ねていたことを記す資料の一つと言えるでしょう。

(天野憲一郎)

こんにちは新着図書です

エコミューズの資料を使って書きました

除本理史 林美帆 編著『西淀川公害の40年―維持可能な環境都市をめざして―』ミネルヴァ書房、2013年

エコミューズに所蔵している、膨大な資料群を整理して15年。こつこつと資料整理をしてわかったことや、いろんな人にヒアリングして見えてきたことを5人の研究者にまとめてもらったのが本書です。「まちづくり」「医療」「教育」「臨海部開発」「運動の拡大」など、いろいろな切り口から患者会運動について検証しました。公害反対運動は、当事者が振り返って語る本が多く、それが資料的な価値を持つことが多いのですが、西淀川ではその証言に加えて、保存してきた資料によって当事者が忘れていたことを明らかにし、第3者が論じることで客観的に活動を位置づけることができました。

第2部には「公害患者」「企業」「行政」「弁護士」の聞き書きも収録しました。被告企業の法務担当者のヒアリングは読みごたえありますので、ぜひご覧ください。(林)

＊お知らせ＊

エコミューズ活動資金【ハモン基金】

寄付協力のお願い

エコミューズを支えてください。あなたの寄付金は青空へとつながります。

●寄付の方法

郵便局からお振込いただけます。また、直接エコミューズにお越しいただいても結構です。

【一口】十万円／一万円／千円

【口座番号】00960―9―124893

【加入者名】あおぞら財団

※通信欄に「ハモン基金への寄付」とご記入ください。一口の金額はお選びください。

ボランティア隊「エコミュウ★」募集

あなたも「エコミュウ★」に入っちゃお！資料整理や展示、イベントの手伝いなど、活躍の場がいっぱいです。

交通費●実費支給(上限2000円)

どうぞお気軽にお問い合わせください。

エコミューズの活動はHamon基金によって支えられています。

Hamon基金

編集後記

本紙No.41(2012年7月号)の新着図書の紹介でマンガ『石の綿』(かもがわ出版、2012年)を取り上げました。アスベスト問題をマンガでわかりやすく描いています。この原画展を6月にあおぞらビル1Fの地域交流スペース「イコバ」にて開催いたします。ぜひ、この機会にどうぞ。(Y)

資料館だより No.44
2013年5月号(季刊1日、年4回発行)

発行所 あおぞら財団付属
西淀川・公害と環境資料館
(エコミューズ)
連絡先 大阪市西淀川区千舟1-1-1
あおぞらビル5F(〒555-0013)
TEL:06-6475-8885 FAX:06-6478-5885
Email: webmaster@aozora.or.jp
http://www.aozora.or.jp/ecomuse/

エコミューズは
青空を未来へ手渡す記録のひろば

西淀川の公害・環境、地域に関する記録資料や環境学習の教材・ビデオなどが豊富です。ぜひご利用ください

開館●月曜日、金曜日(祝日は休み)
10:00AM～5:00PM [要予約]

利用●図書の貸し出し期限は2週間
書庫資料や裁判記録は閲覧のみ